

発行
社団法人
角田市農業振興公社
TEL 63-2328
FAX 61-1521

プロジェクトチームがスタート



▲あいさつする佐藤理事長

佐藤理事長は、角田農業者戦略プランの実践と展開を目指すプロジェクトチーム発足式が、七月十一日、角田駅オークプラザで開かれました。

立ち上げたプロジェクトチームは、①あぶくま農学校の創設②トップブランドづくり③自立した農場制農業の確立④地域循環型農業の確立⑤多角的な流通販売の五つのチームで、公社の会員である農業者、農業関係団体、行政の担当者らで構成、農業の近未来像を描きながら研究を進めることになりました。

発足式では、公社顧問の小松光一氏（茨城大学農学部講師）と渋谷長生氏（弘前大学農学生命科学部助教授）の両氏がそれぞれ講演。「農業というのは経営である。経営である限りプロセスがある。農業者は農産物の広告、宣伝、販売を含めた経営感覚が不可欠だ」（小松講師）、「消費者の視点で農作物のトップブランドづくりを目指せ」（渋谷助教授）と強調されました。

各プロジェクト

チームの紹介

あぶくま農学校

創設チーム（十名）

〈代表者名〉
面川義明（北郷）

〈目的〉
農業人材の養成システムと食農教育の里づくりを推進する「あぶくま農学校」の全体構想をつくる。

〈本年度目標〉
全体構想案の策定

◇食農学習の里づくり

◇自立農業塾の開校

◇「ウェブマガジン・あぶくま農学校」の発行

◇都市を結ぶバーチャル農学校の開校

〈代表者名〉
岸浪俊一（角田）

〈目的〉
どこにでも、誰にでも胸を張って誇れる一流品のものでづくりの研究と実践をします。

〈本年度目標〉
生産物を地域と生産者が保証し、消費者がそのものに価値を見いだすシステムづくり。

〈代表者名〉
星 智宏（枝野）

〈目的〉
集落活性化の原動力となる、自立した健全な農業経営体を数多く育成することを目指す。

〈本年度目標〉
公社が行う農用地利用調整事業が、うまく行えるための方策の検討及び提言を行う。

◇いまの現実を農業者に理解してもらおう提言

◇集積を進めるためのオープンな農用地調整機能の検討

◇担い手グループの育成

〈代表者名〉
渡辺 博（藤尾）

〈目的〉
畜産農家と耕種農家の連携のもと良質な肥の流通システムを確立し、地域循環型農業を推進する。

〈代表者名〉
阿部和郎（藤尾）

〈目的〉
誠実と信頼をモットーに消費者との交流を深め、新たな販売方法の研究と実践により、農業所得の向上をめざす。

〈本年度目標〉
農産物直売所及び通信販売についての研究と実践を行う。

◇インターネット研修会の実施

◇Eコマースの学習

◇ホームページ作成の学習と実践

◇先進農産物直売所の視察研修の実施

〈代表者名〉
阿部和郎（藤尾）

〈目的〉
現状の把握と課題を抽出し、計画的に事業を展開する。

◇家畜排せつ物法講習会の実施

◇家畜糞尿処理の先進地視察

◇たい肥流通システム案の策定

◇地域循環システムの関するプロジェクト全体の討議

〈代表者名〉
阿部和郎（藤尾）

〈目的〉
現状の把握と課題を抽出し、計画的に事業を展開する。

◇家畜排せつ物法講習会の実施

◇家畜糞尿処理の先進地視察

◇たい肥流通システム案の策定

◇地域循環システムの関するプロジェクト全体の討議